

■ 社会共生学部

一 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

知識・技能	① 社会と共生についての学びによって「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現に向けた課題解決のための知識や技能、能力が身につけている。 ② 専門的な知識と実践の融合によって、学問的基礎能力が身につけている。 ③ 専門知及び実践知を、課題解決の現場における実務力へと高めることができている。
思考・判断・表現	④ 自ら課題を発見し、解決するための手法を思考・判断し、考察することができる。 ⑤ ⑤他者の多様な意見を取り入れることによって、共生の意味を深く理解し、自らの考えを的確に表現・伝達することができる。
関心・意欲・態度	⑥ リーダーおよびフォロワーとして自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を身につけている。 ⑦ 他者と共に目標を達成することが社会における共生につながることを自覚し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする協調的で寛容な姿勢を身につけている。

一 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育内容	① 現代社会の公共に係る課題を解決するための政策立案に必要となる幅広い知識や技能を養うために、各部門に科目群を設置します。 ② 専門科目群では、各専門分野における知識・技能を体系的に修得するとともに、横断的・学際的な視点を持って、学部共通科目、基礎科目、専門科目、実践科目、基礎ゼミナール・専門ゼミナールなどの科目を系統的に配置します。 ③ 専門教育においては、専門的な知識や技能を身につけ、他者との協働によって問題解決に取り組んだり、発表したりする科目群を配置します。また実践科目では、フィールドワークなどの実践型教育を複数配置します。さらに卒業研究によって学習成果を論理的・創造的に表現する機会を設定します。
教育方法	① 講義科目と実習科目のどちらにおいても、他者との協働によって問題解決に取り組んだり発表したりする機会を準備し、アクティブ・ラーニングを授業に取りいれます。 ② 専門的な知識や技能を身につけ、社会共生の観点から地域・社会の発展に寄与する能力を育成するために、基礎ゼミナールと専門ゼミナールを組織し、フィールドワークやインターンシップを展開する。また卒業論文・卒業研究により、学習成果を論理的・創造的に表現します。
評価	① 各開講科目における学生の定量的・定性的情報を FD で共有し、学科の教育課程の改善を図ります。 ② 卒業研究とその発表に対して、担当教員複数名による評価と口述諮問を行い、ディプロマポリシーで示された資質・能力の達成状況を測定します。 ③ 卒業時アンケートによって DP の達成度を確認し、その結果を教育課程の改善に役立てます。

一 アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

知識・技能	① 高等学校の教育課程において学習した基礎的な知識・技能を修得している。
思考・判断・ 表現	② 社会共同学部の各学科に関連するさまざまな事象に関心を持ち、高等学校までに学んだ知識・経験を踏まえ、自身の興味関心について、説明することができる。 ③ 意見や価値観の異なる人々と自らのその違いを正確に表現することができる。
関心・意欲・ 態度	④ 新たな知識や他者の意見の価値の多様性を理解しようとし、自らの意見を組み立てようとする姿勢をもっている。 ⑤ 社会のさまざまな事象を自らの問題として捉え、自身の学びを地域や社会の課題を解決していこうとする意欲をもっている。

■ 公共政策学科

ー ディプロマ・ポリシー (DP)

公共政策学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、公共政策学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	① 社会や地域が抱える公共政策上の諸課題を解決するための政策立案に関する知識・教養を身につけている。 ② 公共政策の分析や立案と実施に必要な政治学、社会学、経済学、法学等の基礎知識を論理的に理解している。 ③ 得られた知識を社会や地域の課題解決の現場における実務・実践力へと高めることができる。
思考・判断・表現	④ 自らがテーマとした公共政策上の課題を解決するための方策について、政策学等の思考を基礎として、関連する学領域の研究手法を用いて考察することができる。 ⑤ 習得した専門科目が扱う手法を用いて、さまざまな公共政策上の課題を発見、分析し、表現することができる。 ⑥ 他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現、伝達できる能力を身につけている。 ⑦ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
関心・意欲・態度	⑧ 社会や地域において、民主的で自由な社会を支えるための公共政策上の課題を解決するためのリーダーおよびフォロワーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を身につけている。 ⑨ 学領域での学習で得た知識を活用し、公共的課題を解決するための多様なニーズに応えようとしている。 ⑩ 他者と共に目標を達成しようとすることの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互の理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。

ー カリキュラム・ポリシー (CP)

公共政策学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の課題を解決するために必要な政策学の基礎を体系的に身につけ、幅広い知識や技能を養うために、第Ⅰ類科目（共通科目）が配置されるとともに、専門科目としての基礎科目群を設置します。 ② 専門科目では政策学を主軸とし、行政学、社会学、政策科学等に直結する諸分野（公共政策、環境、観光、地方自治・コミュニティ等）を学際的に学びます。 ③ 中央省庁や各地の自治体、民間企業、非営利団体等の公共政策に関わる組織や現場において実務を学び、修得した専門知識を実践に応用していくことを企図して、クォーター制の特質を活かしたフィールドワークを展開します。 ④ このフィールドワークでの学習を支援するため、基礎ゼミナールをはじめとした演習系科目のほか、複数の事前事後学習を行う科目群を配置します。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 集中的な学習環境やフィールドワーク等といった多様な学びの場を整えることを通じて、綿密な指導に取り組み、単位の実質化と教育の質保証を目指します。 ② 少人数の学習集団編成を行い、学生の自主的な学びを日常的にサポートする環境としてチューターないしはティーチングアシスタント等を配置し、学生にとって学修をすすめやすい学修支援体制を整備します。 ③ クォーター制を導入することで同一科目の授業を週2回実施し、アクティブ・ラーニングとPBLの教育手法の組み合わせにより、課題解決のための能力を養うことを特色とします。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ① フィールドワークは、参加状況のみならず、倫理的態度や姿勢、記録や報告書、成果発表会の質疑等により、複数教員および担当当事者の合意により評価します。 ② 4年間の総括的な学習成果として卒業研究を課し、その成果を発表する場として口頭試問もしくは審査発表会を開催します。卒業研究およびその発表に対し、複数の教員の合議に基づき、DPの達成状況を総合的に評価します。 ③ カリキュラム改善のため、学期ごとに学生の成績や授業への参加態度を確認するほか、卒業時にはカリキュラムループリックに基づく卒業時アンケートを実施し、教育内容や方法の見直しを行います。またDPに基づいた教育活動の効果や効率性についての評価を組織的に検討します。

一 アドミッション・ポリシー（AP）

公共政策学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した能力・資質を総合的に備えた学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ① 国語、英語、地理歴史・公民、数学等の各教科科目について、高等学校卒業相当の知識を身につけており、高等教育を受けることができる学力が備わっている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ② 自ら問いを立て、課題を解決していくための道筋を深く考えることができる。 ③ 意見や価値観の異なる人々の考えと自らのその違いを客観的に表現することができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ④ 社会や地域の公共政策上の課題に対して深い関心を持ち、公共政策を担う人材となることに強い意欲を持っている。 ⑤ 地域の課題解決に向けて、他者との協働によって目標を達成しようとする姿勢を持っている。

■ 社会福祉学科

ー ディプロマ・ポリシー (DP)

社会福祉学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、社会福祉学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	① ソーシャルワークの思想、指針となる理論と支援に役立つ知識、技術を理解するために、必要な読解力と記述力、及び学びの方法を身につけている。 ② 地域共生社会の実現に向け、社会福祉学の価値・知識・技術を、人と社会への支援に活用する方法を身につけている。
思考・判断・表現	③ 学んだことを生かして、自らの生き方及び果たすべき責任や役割について考察を深めることができる。 ④ 社会福祉学領域の研究や方法を通じて、地域社会や身近な人々の間で生じている問題を発見し、その解決方法を判断し、不足する点の改善を図ることができる。 ⑤ 学んだ知識、実践知について自らの考えを他者に対して的確に表現することができる。 ⑥ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
関心・意欲・態度	⑦ 社会福祉学の学びから学習や研究課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を有している。 ⑧ 他者と協働し、共生社会構築の役割を担う意欲をもっている。 ⑨ 多様な人々の価値観を受け止め、円滑な人間関係を築き、チームアプローチにより目標達成に向けて努力することができる。 ⑩ グループの特性に応じて、適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮する姿勢を有している。 ⑪ 自分自身の不足する点は率直に振り返り、自身の成長につなげることができる。 ⑫ 社会福祉学の価値・知識・技術を理解し活用できるよう、日々成果を蓄積しようとする意欲を持っている。

ー カリキュラム・ポリシー (CP)

社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、社会福祉学固有の能力と、市民性を涵養するジェネリックスキルをもつ人材養成に向けて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会福祉学の基盤となる価値や理念を理解し、それらを具現化する基礎的な知識、思考力・判断力・表現力を養成するために、基礎部門の科目群を配置します。 ② 社会福祉学及び関連領域の蓄積に基づき地域共生社会の形成に向けて、専門的技能の基盤となる価値・知識・技術を、講義・演習・実習等により体系的に身につけるために、専門部門の科目群を配置します。 ③ 社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格取得に必要な指定科目を配置します。また、すべての科目は、社会福祉士、精神保健福祉士を養成するために十分な水準とします。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> 1. 基礎部門 <ul style="list-style-type: none"> ① アクティブ・ラーニング型講義：学生が学びの主体となるように、関心や意欲を高めて知的好奇心を育て、価値と倫理教育の基盤である感性を磨くために、「社会福祉入門」を配置します。 ② サービス・ラーニング：共生社会構築に貢献する市民性涵養の基礎力をつけるために、少人数教育による社会福祉学基礎ゼミナールを配置します。 2. 専門部門 <ul style="list-style-type: none"> ① アクティブ・ラーニング型講義：専門職養成と市民性涵養のために、学生の知的好奇心を発展させ、問題解決への知識や技術を高める授業を展開します。 ② インターンシップ：幅広い職業経験を深めるために、少人数のグループ指導と個別指導を軸とする PDCA サイクルにより授業を展開します。そして、学生の主体性を高め、自己の目標を設定し実施することで、不足する点に気づき改善できる教育を提供します。 ③ 演習と実習：社会福祉士などの専門職養成のため、大正大学約 100 年間のソーシャルワーク教育成果に基づき、ジェネラリスト・ソーシャルワークに加え、精神科医療・学校・コミュニティ・病院で活躍できるプログラムを、社会福祉現場や実務者の協力を得て少人数教育により提供します。 ④ プロジェクト・ベースド・ラーニング：卒業研究は、学びの方法やアカデミックな倫理を定着させ、実践的・論理的・創造的な研究活動を表現する機会を創るために、少人数ゼミにより 2 年間を通じてグループによるプロジェクト研究を進めます。 ⑤ ピアサポートとグループダイナミズムを活用した国家試験対策：社会福祉士国家試験対策は、2 年次より 4 年次まで開講し、社会福祉学科が目指す知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度を有する社会福祉士になるために、資格試験勉強においても自主性を育みます。学修を習慣づけ、専門的な知識を定着させるために、学習目標は個人とチームで設定し、グループダイナミズムにより互いに学び、励まし合う場を提供します。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 4 年間の総括的な学修成果として卒業研究を課し、その成果を発表する場として口頭試問審査発表会を開催します。グループで協働・分担したプロセスや作成した成果物に対しては、複数の教員の合議に基づき、DP の達成状況を総合的に評価します。 ② カリキュラム改善のため、学期ごとに学生の成績や授業への参加態度を確認するほか、卒業時にはカリキュラムレビューに基づくアンケートを実施し、教育内容や方法の見直しを行います。また、DP に基づいた教育活動をその効果や効率的観点をふまえ組織的に推進します。

一 アドミッション・ポリシー (AP)

社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	① 社会福祉学科の学びに必要な基礎的な知識を有している。 ② 高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・外国語について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ③ 課題を的確に理解し、その解決のために必要な情報を集めることができる。
思考・判断・表現	④ 物事を順序立てて考えることができる。 ⑤ 多様な考え方を自分なりに整理し考察することができる。 ⑥ 自分の考えを口頭や文章でわかりやすく伝えることができる。 ⑦ 多様な考えや価値観を受け入れ、尊重することができる。
関心・意欲・態度	⑧ 文化や歴史、人間の生活に関わる様々な問題に対して、深い関心を持っている。 ⑨ 自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わっていかうとする意欲を持っている。 ⑩ 読む、書く、話す、聴く能力の向上と、わかりやすい表現方法の習得に意欲を持っている。